

令和2年度 研究外部評価（事後評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
20-C5	鋳込み成形用酸化白色ハイ土の実用化研究	10.8	B
研究期間	平成30年度～令和元年度（2ヵ年）		
研究概要	県内陶石の活用と新規商品用の材料開発を目的として、鋳込み成形用の酸化白色ハイ土の実用化を図る。		
外部評価委員のコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・商品3アイテム以上の目標に対して1アイテムの評価中という点が残念な点ですが、安定量産化に向けてさらに進めてください。 ・おおよその成果が得られているようで素晴らしいと思います。SPS7でも離型性の改善は難しいのでしょうか。原料の安定的な確保が今後も問題となることも出てくると思いますので、その点についても考慮した検討が今後必要になってくるのではないのでしょうか。 ・目的（計画）で、どの程度のニーズがあるのかよくわからず時間の関係もあるが、妥当性の判断が難しかったです。 ・成果の中でコスト面での配慮があるとよいと思います。 ・従来ハイ土よりも一部優れた性質（曲げ強度）を実現されており、将来の汎用性ある開発を達成されつつあると思います。成形性改善などの課題はまだ残っているかと思いますが、現場にて使いやすい最終形態を目指していただきたいと思います。 ・当初目標を達成しつつあると思います。 ・九谷の発展のため実用化を急いでください。 ・地場産業を支えてきた県産出の原料を有効利用する注目される研究であると思います。ただ、この研究によって成果が出るまであと一歩のところであり、成形性に係わる究明されていない要因を科学的な手法で明らかにされることを望みます。 ・今後は均一性と理想の配合割合を調整して目標を達成してほしいです。 ・要求性能を達成するために多くのトレードオフを解決する配合を見出した意義は大きいですが、しかし、実用に供するためには解決しなければならない課題はまだ残されており、さらに配合条件が極めてデリケートなため安定的な量産に不安があります。今後これらの問題の一つずつクリアし、汎用化されるようになることを期待します。 ・一定の成果は挙げられていると思いますが、要望のあったドイツカオリンの使用については目途が立っていないことが残念です。 ・テスト品の中では、SPS3、SPS4、SPS5の3種が合格となったようですが、これらについて長所、短所、特記事項をきちんとまとめて表記すれば、より分かり易かったと思います。 			